



双葉郡の中枢を担う 富岡町の役割と復興に向けて

福島12市町村の将来像に関する有識者検討会（第1回）

平成26年12月23日



福島県富岡町

富岡町の歴史的特徴

～ 魅力と利便性を兼ね備えた
『浜通りの中間拠点』として発展 ～

江戸



明治～昭和



昭和～平成

関ヶ原の合戦後、外様伊達家をにらむ
徳川譜代の最前線地帯

明治初年、金納徴税の拠点 “税務署”を配置
※税務署は相馬、平、**富岡町**のみ
➡ その後、国県などの行政機関が集積

郡内有数の観光イベント

- 夜の森さくら祭・約10万人
- 秋の祭事 えびす講市

福島県内でも数少ない **人口増加自治体**

(H22 : 16,001人)



富岡町の充実した都市機能

～ 国県の行政機関、大型商業施設、医療機関等が多数 ～

- 国機関 ⇒ 裁判所、法務局、労基署、職業安定所、営林署
- 県機関 ⇒ 富岡土木事務所（前身は明治の郡役所）
原子力立地振興事務所
- 警察署 ⇒ 双葉警察署（H22 富岡・浪江警察署統合）
- 金融 ⇒ 6行7店
（東邦、福銀、大東、労金、あぶくま信金、相双信組）
- 医療 ⇒ 今村病院（初期救急医療）
+ 6 医院（内科、外科、整形外科、眼科）
- 郵便局 ⇒ 3局
- 商業 ⇒ ベニマル2店舗、家電量販店、ホームセンター
ドラッグストア
- 電気等 ⇒ 東京電力(株)浜通り電力所、(株)東北電力、N T T等の支店
- 教育 ⇒ 小中学校4校 + ★双葉地区教育構想

★「双葉地区教育構想」は、世界を舞台に活躍できる人材を育成するため、
教育課程の連携や教員・生徒間の交流等の連携を深める中高一貫教育です。

富岡町の整備された交通網

～ 人々の交流が盛ん ～

①JR常磐線

郡内で**最も多い乗降者数**

(H22：約30万人(年間当り) / 富岡駅 + 夜ノ森駅)

②常磐富岡I.C

常磐道自動車の終着点 (H18：92.3万台)

H26.2.22 再開通

H27.3. 1 常磐富岡I.C～浪江I.C開通

※常磐自動車道全線開通

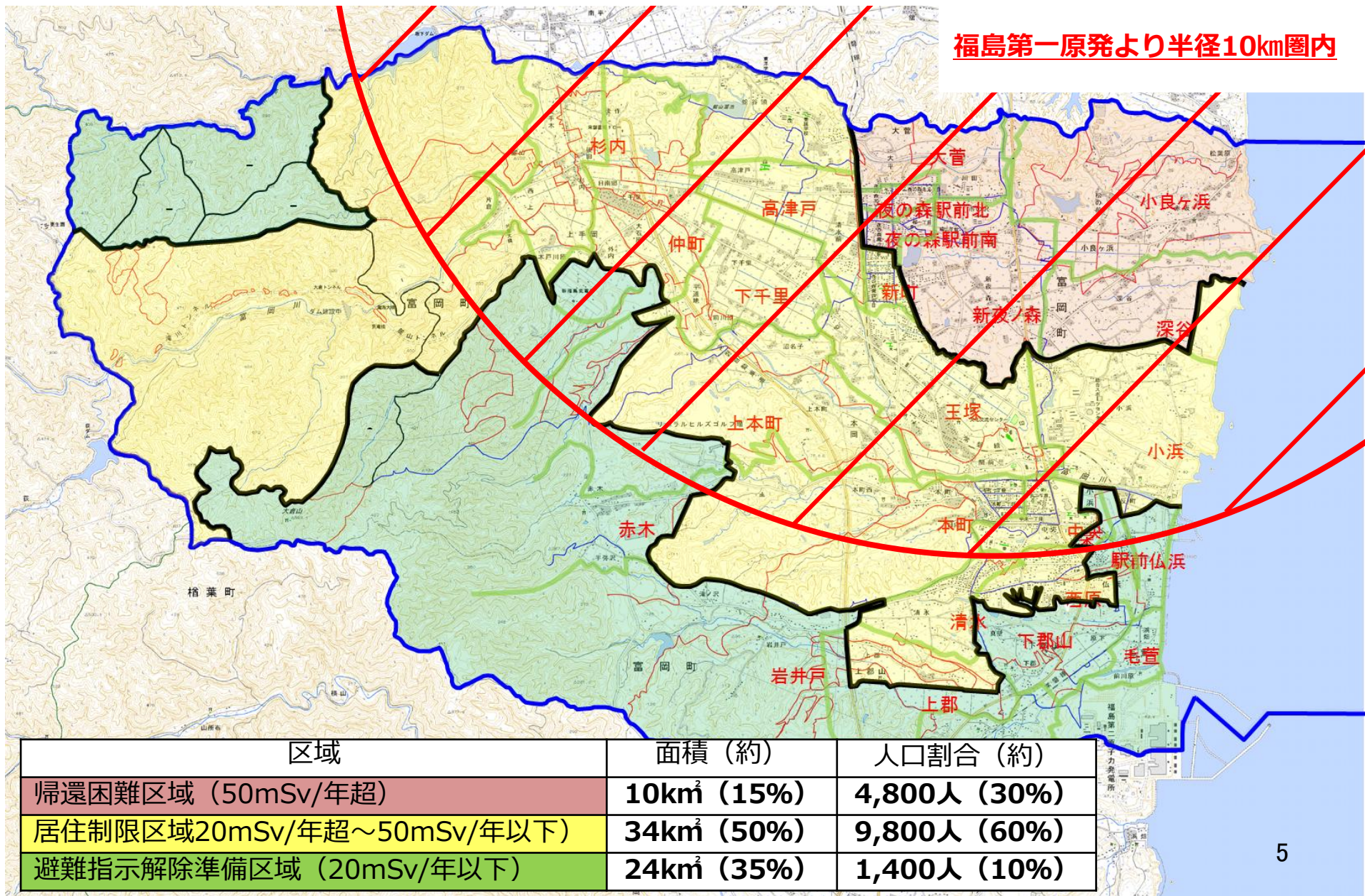
③県道小野富岡線

川内村との強い結びつき
(ex.路線バス運行など)



区域再編後の富岡町

福島第一原発より半径10km圏内



人口動態と避難状況

※H26.12.1現在

①人口動態(住民登録者数)

H23.3.11時点 15,917人 (6,331世帯)

H26.12.1時点 14,115人 (5,625世帯)

▲1,802人 (▲706世帯)

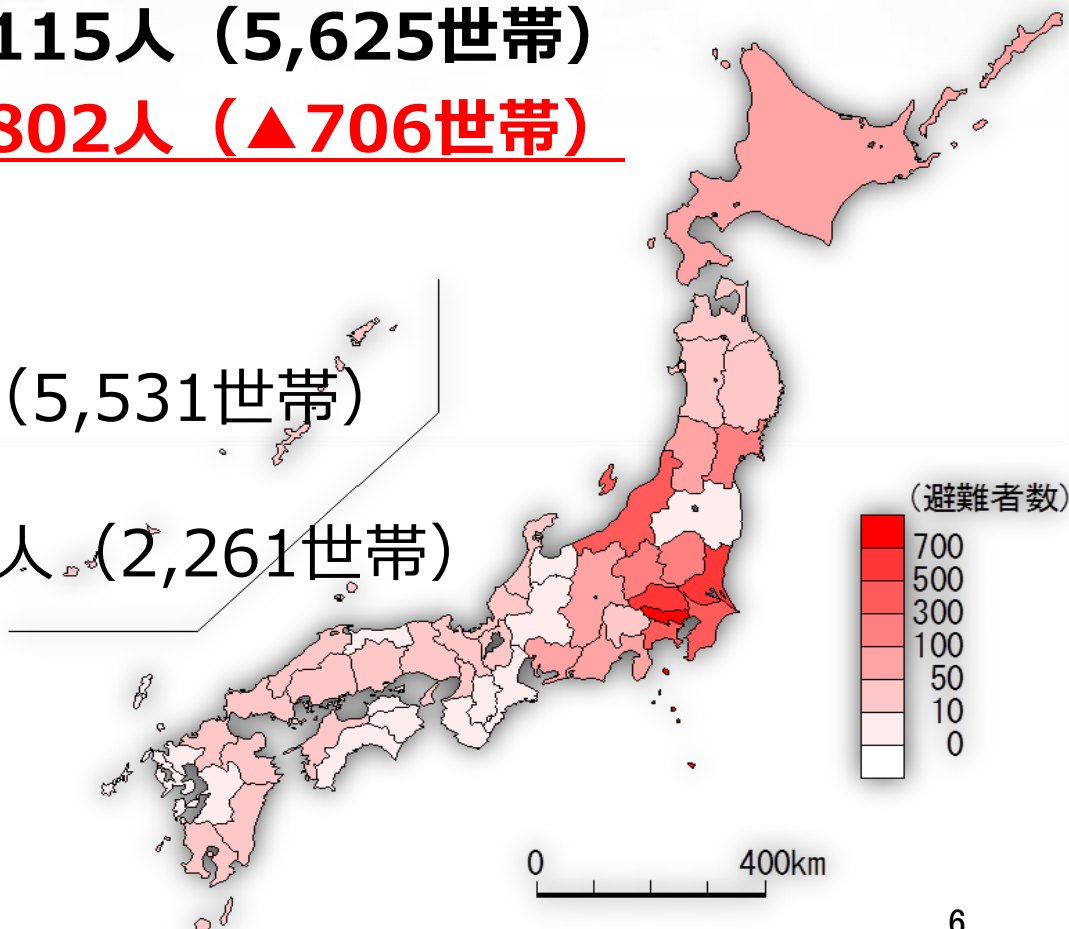
②避難先の状況

県内避難 10,928人 (5,531世帯)

県外・国外避難 4,345人 (2,261世帯)

※H23.3.11以降に住民票を移動された方や世帯分離した世帯があるため、①及び②の人口及び世帯数が異なります。

※H23.3.11以降、亡くなられた方など 644人



復興スケジュール

【これまで策定した町の計画】

- ①富岡町災害復興ビジョン 平成24年1月策定
- ②富岡町災害復興計画（第一次） 平成24年9月策定
- ③富岡町復興まちづくり計画 平成26年3月策定

※「富岡町の帰還に関する宣言」

	復 旧 期			復 興 期
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
復興計画	復興計画（第2次）策定			
	帰還時期検討、住民意向調査、生活環境調査			
除染	住宅除染・農地除染（ともに帰還困難区域以外）			
		仮置き場		
		本格除染後のモニタリング（継続）		
インフラ復旧	仮復旧	浄化センター本格復旧		
		上水道・污水管復旧		
		JR富岡駅・線路復旧		
	高速道路通行無料措置	高速道路通行無料継続を要望		

復興ビジョンの概要（H24.1）

第四次富岡町長期総合計画（案）は、参加型まちづくり推進による『町民との協働』のまちづくり」を掲げていましたが、震災による影響で平成23年3月定例議会は流会となり、未策定となりました。

震災・原発事故を受け、
総合計画が目指す町の歩むべき基本的な**方向性を修正し**、
これまで以上に町民との**協働によるまちづくり**を推進するため、

町と町民協働で一日も早く取り組み、
町の復興を実現するために**2つの基本理念**を掲げました。

〈理念1〉

今の生活の不安を軽減し安心して**帰りたくなる環境**を整える。

〈理念2〉

震災・原発事故を契機に、**従前のまちづくりの課題を解決し**、
安全・安心で新たな魅力をそなえた「**ふるさと富岡**」をかたちづくる。

第一次復興計画の概要（H24.9）

復興ビジョンを指針として、帰還できる町民及び当面帰還できない町民に対する施策や事業等の取り組みを示すため、計画を策定しました。

復旧期（平成24～28年度）の5年間

- 町外での避難生活が安心してできる環境を整備
- 除染や主要なインフラの復旧、災害公営住宅等の整備

復興期（平成29～32年度）の4年間

- 町内の除染、インフラの復旧、住宅再建、生活関連サービスの充実を継続
- 帰還を希望する町民の増加を図る
- 地域再生の素地を育み、安全・安心で新たな魅力を備えた「ふるさと富岡」の実現にむけた取り組み

基本理念の追加

**震災から1年が過ぎ、
避難生活の長期化に対する考え方を新たに追加**

〈理念3〉

当面帰還できない町民の心身の健康を守り生活を再建する。

第一次復興計画で示した町のイメージ



図3 富岡町のイメージ（復旧期）

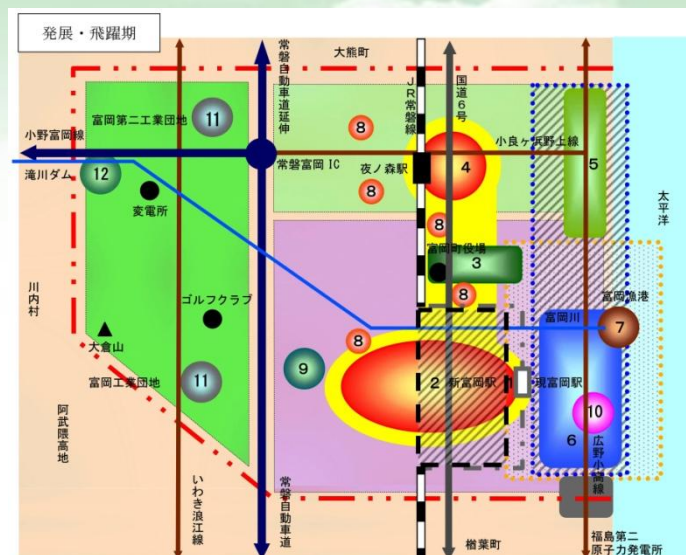


図5 富岡町のイメージ（発展・飛躍期）



図4 富岡町のイメージ（復興期）

（5つのゾーンと12の拠点）

- | | |
|---|--|
| <p>(1) 津波復興ゾーン</p> <p>① 生活拠点整備地区
（災害公営住宅、病院、学校、医療・福祉介護施設等を整備する地区）</p> <p>② 新富岡駅周辺拠点形成地区
■ 新富岡駅移設エリア</p> <p>③ 行政・文化拠点再生地区</p> <p>(2) 北部地域再生ゾーン</p> <p>④ 夜ノ森駅周辺拠点再生地区</p> <p>⑤ 次世代・自然・再生可能エネルギー等供給拠点形成地区</p> <p>(3) 沿岸地域再生ゾーン</p> <p>⑥ 広域観光拠点形成地区</p> <p>⑦ 富岡漁港再生拠点地区</p> | <p>⑧ 集落拠点再生地区</p> <p>⑨ 新農業拠点地区</p> <p>⑩ 「富岡ブランド」創出拠点地区</p> <p>(5) 西部森林地域再生ゾーン</p> <p>⑪ 工業団地再生拠点地区</p> <p>⑫ 滝川ダム周辺拠点地区</p> <p>■ 街並み形成地区</p> <p>■ インフラ・ライフラインの復旧</p> |
|---|--|

復興まちづくり計画（H26.3）

復興まちづくり計画は、富岡町災害復興計画（第一次）の中で
重点的に進めるべき事業を具現化した実行計画です。

東日本大震災による自然災害

原子力災害からの再生・復興に向けた2つの施策

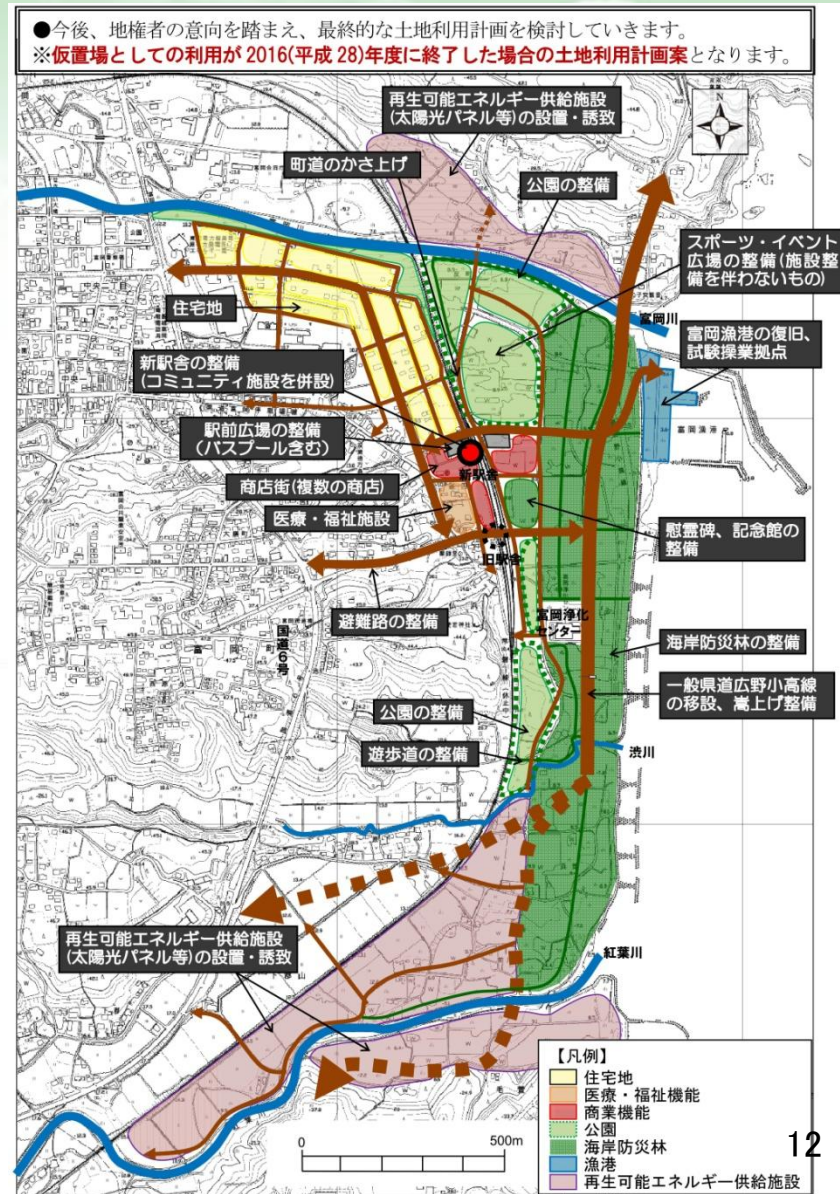
①町民の**生活再建支援策**の提示

②**沿岸部の土地利用**など具体的な計画
を提示

復興まちづくり計画で示した沿岸部

表 4-1 ゾーン別の配置施設及び留意事項

ゾーン	配置施設・機能	施設配置の際の留意事項
住宅ゾーン	- 戸建て住宅 - 復興公営住宅 - 集合住宅	人命を守るため、津波被害を受けにくい場所に整備する
都市機能集積ゾーン	- 医療・福祉施設 - 商業・宿泊施設 - 駅舎（コミュニティ施設併設）	- 玄関口として町外の方を受け入れる施設を整備する - 住宅ゾーンでの居住に必要な生活サービス機能を確保する
再生可能エネルギーゾーン	再生可能エネルギー供給施設（太陽光パネルなど）	周辺施設の電力を補うとともに、原発依存からの脱却のシンボルとして整備する
にぎわい創出ゾーン	スポーツ・イベント広場を有する公園	交流の機会を増やすために、アクセスが容易な地域に人が集うことのできる場所を設ける
漁港ゾーン	- 漁港 - 試験操業の拠点	福島第一原子力発電所に近い港であることを活かした機能誘致を図る
海岸防災林及び学習・レクリエーションゾーン	- 海岸防災林 - 遊歩道 - 慰霊碑・記念館	- 津波防御機能を発揮させるだけでなく、自然に親しみながら回遊できる空間を設ける - 東日本大震災を教訓に、災害について学習の場を設ける



富岡町災害復興計画（第2次）

～「帰還」「長期待避、将来帰還」の実現に向けて～

(1)概要・流れ

第二次復興計画を**平成27年春の完成**を目指し、**公募町民30人と役場の若手職員26人**がワークショップ形式で議論を交わしています。

(2)計画策定の三本柱

検討委員の議論をもとに	意向調査の記述を活用	町民と職員が未来像を描く
①ワークショップで進むべき方向を検討 ②分野別に委員が問題を議論 ③計画で「町としての姿勢・方向性」を提示 ④「帰還する人」、「帰還しない（できない）人」、「長期的に避難生活を送り、帰還を待つ人」など、それぞれの判断を尊重する施策案	①平成25年度富岡町住民意向調査の全自由記述（2,000件）を分析し、計画の項目に盛り込む ②同年度の富岡町子どもアンケートの全自由記述を盛り込む ③上記の項目出で、検討委員会の議論を補足	①計画は、町民委員の意見をもとに町職員・有識者が起案 ②町民委員とともに計画案を確認・修正 ③計画案について町民の皆さんからご意見を頂戴するため意見交換会を開催 ④できあがった素案への意見公募を実施（平成27年3月予定）

復興に係る条件整理

①インフラ復旧と生活環境の整備

- 除染・インフラ復旧・生活関連基盤整備に向けた政策
- 商業施設・医療帰還などの誘致

②町民の生活再建

- 原賠審を始めとする国の諸機関が対応
- 賠償充実などについて町が要望活動

③こころの復興

- 歴史・文化・伝統の保全し、
「富岡町」「双葉郡」との絆を維持
- 帰還を断念した町民が古里を
思い懐かしむ資料の収集



民家より貴重な資史料を救出。

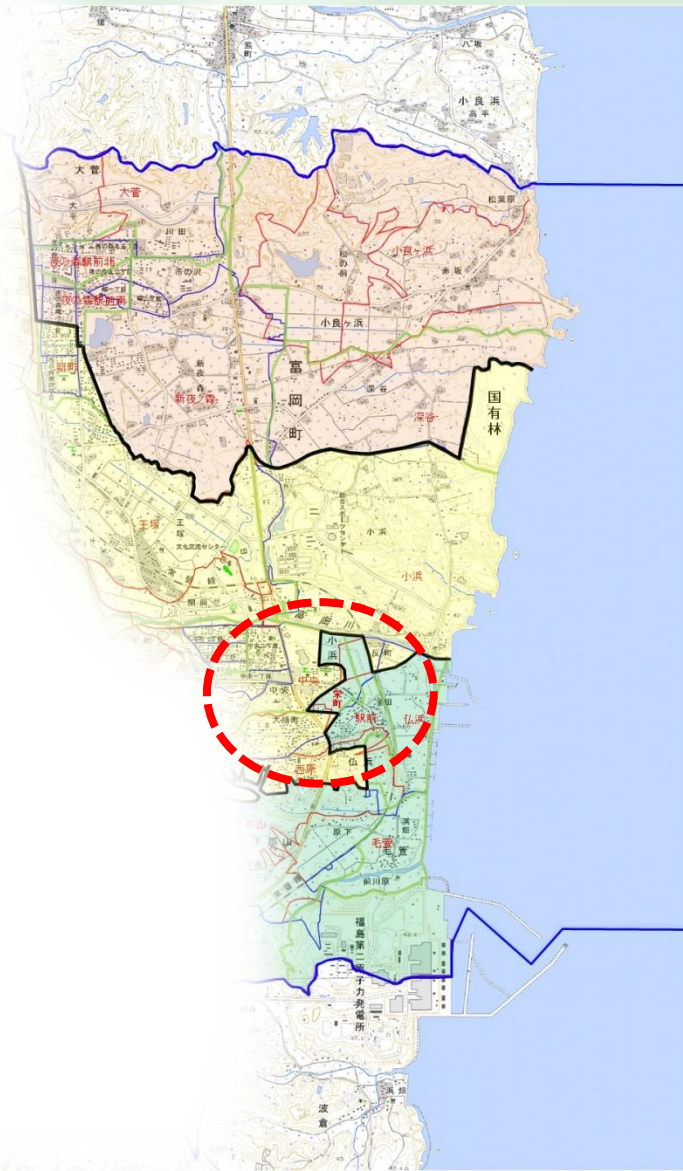
“こころの復興”プロジェクト 津波被災したパトカーを後世に

津波被災したパトカーは福島県警察双葉警察署の管理する車両ですが、富岡町民を始め多くの皆様から保存についてのご意見、ご要望が多数寄せられました。

富岡町では、それらのご意見を踏まえ、
本車両に乗車され殉職されたお二人のご家族やご遺族、
福島県警察本部など
関係機関との協議を行い、
震災の記憶を後世に伝える為
本車両を保存することにしました。



町の復興に向かって “中核拠点構想”



- ①JR常磐線 富岡駅
- ②教育施設や大規模商業施設が隣接している
曲田土地区画（※整理事業地）
- ③中央・本町中央商店街を含む
岡内地区区画（※事業完了地）
- ④双葉地方の交通の要
「国道6号」 周辺を

復興への中核拠点

と位置付けます。

富岡町復興中核拠点構想

～双葉郡の中核を担う、充実した都市機能～



富岡町復興中核拠点構想

～双葉郡の中核を担う 次世代に向けた 未来へのまちづくり～



富岡町の概要

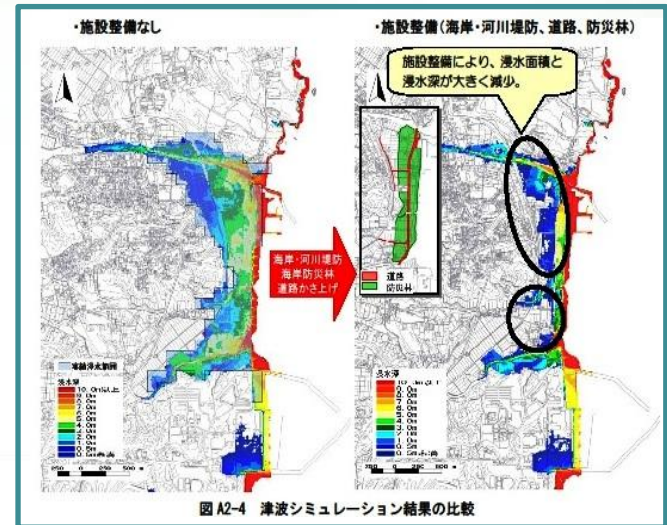
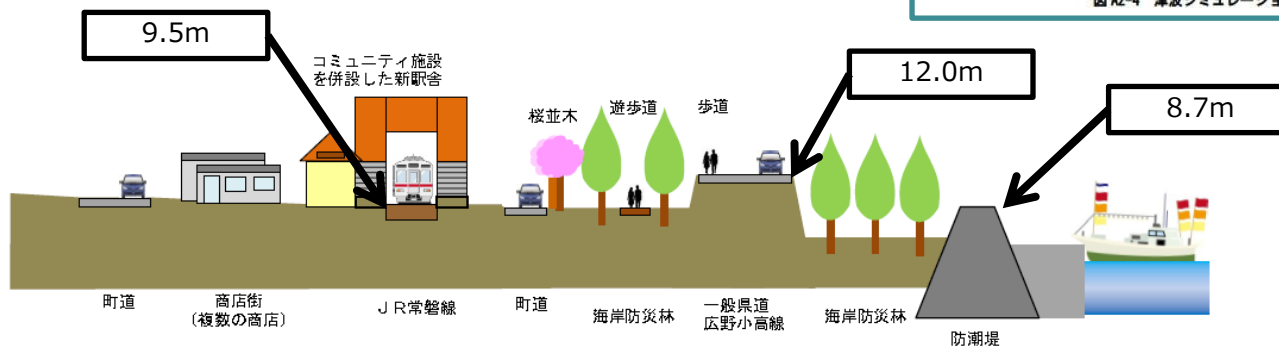
- 道路 常磐自動車道 常磐富岡I.C から 約8km（約15分）
- 空港 福島空港まで 約67km（約90分）
- 港湾 小名浜港まで 約58km（約60分）

～東日本大震災から学んだことを～ **防災・減災対策**

『東日本大震災により発生した津波と同規模の津波が襲った』という条件のもと、海岸堤防や海岸防災林などの整備により津波の威力を抑える効果（津波シミュレーション）を検証しました。

多重防御・減災対策（計画）

- ①海岸堤防を嵩上げし、**8.7m**に
- ②県道広野小高線を嵩上げし、**12m**に
- ③幅**200m**程度の海岸防災林を新たに整備



富岡町復興まちづくり計画（平成26年3月）より抜粋

除染等工事の進捗状況

環境省 富岡町除染等工事
除染進捗状況《平成26年10月末》

(平成26年12月12日現在)

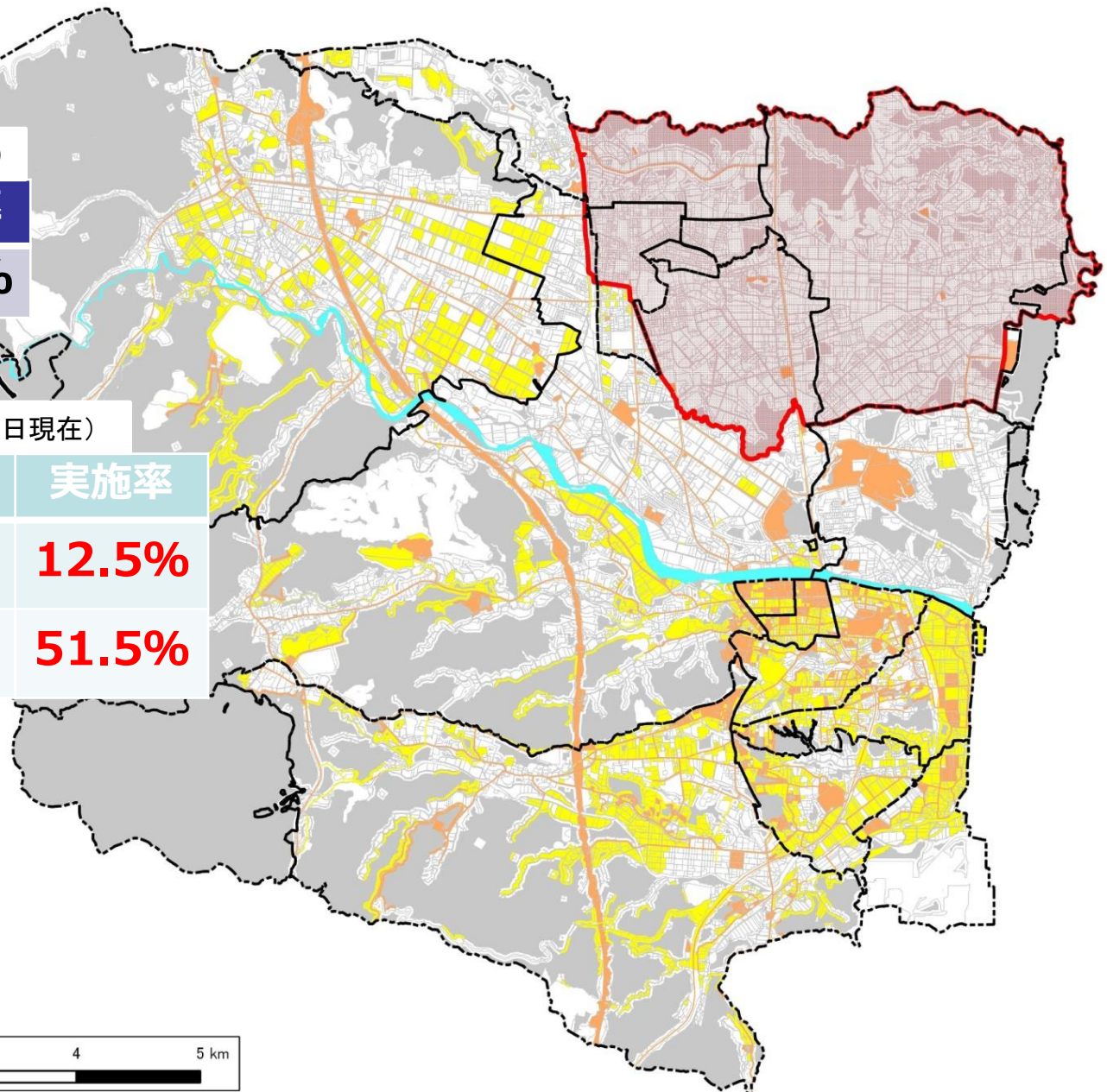
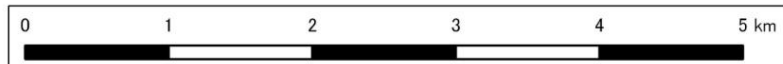
地区	同意取得率
富岡町全体	88.7%

(平成26年12月12日現在)

種別	実施率	種別	実施率
宅地	8.8%	森林	12.5%
農地	10.2%	道路	51.5%

《凡例》

- 作業中
- 除染完了
- 対象外
- 帰還困難区域
- 富岡川



インフラ復旧

●上水道

水道の使用が平成26年10月より一部再開し、利用者の立ち会いのもと、安全を確認した上で給水をしています。

町内（帰還困難区域を除く）の上水道の復旧は、**平成28年10月を目標**としています。

【水道水中における放射性物質の モニタリング検査結果】

双葉地方水道企業団では、週3回の検査を実施し、

「ヨウ素131」、「セシウム134」、「セシウム137」
は、**いずれも検出限界値（1Bq/kg）未満**です。

※飲料水の基準値 10Bq/kg（WHO飲料水質ガイドラインより）



上下水道使用再開目標時期区域図

○お示しします「上下水道使用再開目標時期」は、
上下水道の使用再開を確約するものではありません。

上水道、下水道の使用再開を計画される場合は、事前に、
富岡町復旧課へご相談くださるようお願いいたします。

